



図書館だより 2024 第3号  
2024年11月29日発行  
名寄市立大学図書館運営委員会  
名寄市立大学図書館  
〒096-8641  
名寄市西4条北8丁目1番地

## 男女共同参画とジェンダー平等 ～エンパワーメントって何だ?～

## 名寄市立大学図書館 第14回サイエンスカフェ

名寄市男女共同参画推進委員会との共催で、11月1日(金)に社会福祉学科教授の大坂祐二先生を講師に「男女共同参画とジェンダー平等～エンパワーメントって何だ?～」という演題で第14回サイエンスカフェを挙行政いたしました。当日は市民、教職員・学生合わせて27名のご参加がありました。

今回講師を務めていただきました大坂先生は、名寄市男女共同参画推進委員会委員長も務められており、名寄市の男女共同参画推進に関する政策内容について詳しくご解説いただきました。

また「選択的夫婦別姓制度」や「保育園落ちた日本死ね!」など世間を騒がせたニュースなど事例を踏まえた問題点を指摘し、これらを解決する概念に「empowerment(エンパワーメント)」の重要性を説かれました。エンパワーメントとは「本人がもつ力を引き出す」もの



と解説しつつ、これまで軽視されてきた女性の社会参加に関わる能力を強化(エンパワーメント)していくことがこれからの男女共同参画社会やジェンダー平等を実現するうえで重要になることを熱く語っていただきました。

講演後には、市民や教職員始め、エンパワーメントを高めるためにはどのような取り組みをすればいいのかなど多くの議論がなされました。

今回のサイエンスカフェ会場で展示した男女共同参画やジェンダー平等についての関連図書を、大学図書館でも展示しています。

「男女がお互いを尊重し合い、職場、学校、家庭、地域などの社会のあらゆる分野で、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮し、喜びや責任を分かち合うことができる社会」という理想に対して、現状はどうか、今後変わっていくためにはどうすべきか考えるきっかけをくれる本を、大坂先生にピックアップいただきました。

この機会に是非ご一読ください。

展示期間：11月5日(火)～11月30日(土)

展示場所：大学図書館2階展示コーナー



男女共同参画とジェンダー平等  
関連図書

主催：名寄市立大学図書館運営委員会  
共催：名寄市男女共同参画推進委員会



# 大学図書館特別展示紹介

## 『『あてっこ どうぶつずかん だれ』巡回パネル展 in 北海道』 9月25日(水)～10月15日(火)開催

本学特命教授あべ弘士先生の絵本『あてっこ どうぶつずかん だれ』巡回パネル展 in 北海道(KADOKAWA)が、9月25日～10月15日の会期で図書館1階ラーニング・commonsにて開催されました。作品の中で出題された動物クイズの視点は、旭山動物園にて飼育係として勤められていた先生ならではのものでした。楽しく知識を習得する一冊であるとともに、先生のいきいきとした絵画に親しむ貴重な機会となりました。



(社会保育学科教授 堀川 真)



## 『韓 三淑の風景画展』 10月18日(金)～11月9日(土)開催

過日日程で、韓国の西洋画家ハンサムスク(韓三淑)特別展を開催しました。本学の図書館は、図書館としての機能だけでなく、室内の雰囲気や窓越しの景色は一枚の絵画のように美しいものです。そこで本学と深いご縁がある、韓国の重鎮画家ハンサムスクさんの特別展を設けました。期間中は予想を上回る多くの市民の皆様が図書館を訪れて作品を鑑賞され、ご好評をいただきました。また、図書館内に入ったことが初めてだという方がかなり多くいらっしゃいました。



今後も芸術をも楽しむ空間としての本学図書館の機能に期待が寄せられます。

(大学図書館長 黄 京性)



## 図書館サークル 『ぱたん、ぺら』

# インフォメーションコーナー



図書館サークル『ぱたん、ぺら』による企画展示『あなたの新生活が少し変わる本』が、9月24日(火)～10月31日(木)の期間、図書館2階展示コーナーにて開催されました。

学生の手による展示ということで、図書館職員や教員の選書・展示とはまた異なる視点からの構成となっており、サークルメンバーの力作POPや展示本のミニ本リスト等、新入生・在学生の皆さんへ向けて本を読む楽しさ・面白さを肩肘張らずに伝えたいという思いが感じられる内容でした。

また、『ぱたん、ぺら』は隔週木曜日 18:30～ 図書館1階ラーニング・commons内プレゼンテーションルームで活動されています。本が好きな方・図書館に興味のある方は勿論、今回行われた展示の内容が気になるという方も、是非顔を出してみてくださいね!



# — あなたに響け、この一冊。 —

名寄市立大学図書館  
ビブリオバトル 2024

10月22日(火)に、第11回となる「ビブリオバトル2024」を開催しました。ビブリオバトルは、「人を通して本を知る。本を通して人を知る。」をキャッチコピーに、小学校～社会人まで年齢を問わず楽しめるコミュニケーションゲームとして、全国で開催されています。当館では、ここ数年は名大祭に合わせた開催とていましたが、学生より「大学祭の係で出場が難しい」「ステージよりもう少し気軽な場所でやってみたい……」等の声を受け、今年は平日に、図書館1階ラウンジ・コモンズ内プレゼンテーションルームで実施となりました。

今回は8名の学生に参加いただき、10月15日(火)、16日(水)の予選会を経て4名が22日(火)の本戦に進出。本戦当日は、始めに黄京性館長より開会の挨拶をいただき、嘉村藍先生によるデモンストレーション披露の後本戦を開始しました。予選・本戦を通して、バトルの皆様によるオススメ本への想いが込められた発表に質疑応答も大いに盛り上がり、和やかながらも熱気溢れる大会となりました。

投票の結果、チャンプ本は高橋さんが紹介した『成瀬は天下を取りに行く』、準チャンプ本は川島さんが紹介した『絶望名人カフカの人生論』に決定。副賞として図書カード5,000円が高橋さんへ、3,000円が川島さんへ贈呈されました。また、惜しくも本戦出場・チャンプ本選出を逃した他バトルの皆さんには参加賞として図書カード1,000円(予選出場者)及び2,000円(本選進出者)が贈呈されました。

参加くださったバトル及び観戦者の皆様、ありがとうございました！



## バトル感想 & エントリー本紹介

今回出場されたバトルの皆様からいただいた感想とエントリー本を紹介いたします！

※高橋佳奈さん、今村花香さんは本人からのお申出により、感想を掲載しておりませんのでご了承ください。  
高橋さん・今村さんが紹介くださった本は以下の通りです。気になった方はこの機会に是非読んでみてくださいね！



社会福祉学科3年 **高橋 佳奈** さん  
エントリー本『52ヘルツのクジラたち』町田そのこ著、中央公論新社(予選時)  
『成瀬は天下を取りに行く』宮島未奈著、新潮社(本戦時)



社会福祉学科2年 **今村 花香** さん  
エントリー本『ムーミン谷の仲間たち』トーベ・ヤンソン著、山室静訳、講談社



社会福祉学科3年 **三春 綺乃** さん  
エントリー本『四月になれば彼女は』川村元気著、文藝春秋  
本を通して他の学生と交流ができたのが学びになりました。なかなか他の学年と交流する機会も多くないため良い刺激を得ることが出来ました。また、他の学生の本の紹介を聞き、どのようにその本で自分が変化したのか等を聞くことができ、自分もその本を読んでどんな風に考えるのだろうと興味が湧き読みたいという気持ちになりました。  
私はもっとビブリオバトルの参加者が増えると嬉しいなと思いました。参加者が増えることで様々な本が紹介されて、自分が惹かれる本のジャンルだけでなく、他のジャンルにも興味が湧き自分の興味の幅が広がりさらに本の世界を楽しめると思いました。



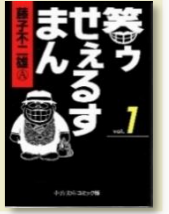
社会福祉学科2年 **川島 伸大** さん  
エントリー本『絶望名人カフカの人生論』カフカ著、頭木弘樹編訳、新潮社  
今回初めてビブリオバトルに参加しましたが、主催の図書館の方々、出場者の皆様、観覧者の皆様が温かい言葉をかけてくださり、とても楽しく大会を終えることができました。読書をしてアウトプットとして人に伝えることは、自分自身の頭の中の整理にもなり、より深い理解へ繋げることができます。人へ自分の考えを伝えることに苦手意識がありましたが、ビブリオバトルでは相手を批判しないという考えのもとで行われるので、気軽に参加ができると思います。難しいものだと思うが、気軽に参加することが楽しい読書体験になると思いました。



社会福祉学科1年 **堂田 実花** さん  
エントリー本『ここは今から倫理です。』雨瀬シオリ著、集英社  
先輩に誘われ、勢いで初めてビブリオバトルに参加しました。紹介する本は漫画も可という点が、参加しやすかったと感じています。一番の感想は“楽しかった！”です。この本の魅力をもっとうまく伝えたい！と本を読みなおし、改めてこの本が好きだと感じられたこと。自分の好きなことを聞いてもらえる場に立てたこと。他の方の発表を聞いたことなど、全てが楽しかったです。また、とても良い経験になったとも感じています。  
自分が惹かれる発表に出会うことができたので、今後取り入れたいです。バトルに参加することができて読書がもっと楽しくなりました。ありがとうございました！



社会保育学科2年 **栗村 慶正** さん  
エントリー本『笑わせえるすまん』藤子不二雄A著、中央公論新社  
今回大学では2回目となるビブリオバトル出場であったが、様々な課題が見つかった結果となった。私は今回「笑わせえるすまん」を紹介したのだが、他の出場者が紹介する本とは大きく毛色が異なる本であり、他の本は内容が明るめのものが多かった印象だが、私の紹介した本はかなりブラックな内容であったので、読む人を選んではしまうものだったのかもしれない。また、無意識のうちに緊張で声あまり出ず、プレゼンとしてもあまりいい出来ではなかった。本の紹介というのは、読みたいと思える内容、プレゼン能力がなければ、本を手にとってみようとは思われないだろう。読む人を選ぶ本ではなく、万人が読んでみたいと思えるような本選びのセンスと、魅力を引き出す紹介ができるプレゼン能力を来年までに磨いていきたい。



社会福祉学科2年 **塩田 桃世** さん  
エントリー本『本を読んだことがない32歳がはじめて本を読む』かまど、みくのしん著、大和書房  
今回二度目のビブリオバトルに出場させて頂き、改めて貴重な体験をさせて頂いたと感じます。私が紹介した本は、私に読書の楽しさを新鮮に呼び起こしてくれました。発表を通じてこの本に溢れるたくさんの魅力をより伝わりやすい工夫は何か？ということを経一杯考えて、当日に挑みました。その努力があったことでこの本がとても思い出深いものになりました。このような発表の場を設けて下さった皆様に感謝申し上げます。次回もぜひ参加させて頂きたいです。



社会福祉学科2年 **貝塚 みづほ** さん  
エントリー本『恋に至る病』斜線堂有紀著、KADOKAWA  
ビブリオバトルに初めて発表者と観客として参加しました。発表するまでは不安と緊張でいっぱい、また、観客としてはバトルと付いているので、公平な立場で楽しく聴けるか心配でした。しかし、いざ発表してみると、最初は緊張が勝っていましたが、観客の方々の温かい反応で徐々に楽しく話せるようになりました。ディスカッションの時に質問や感想を頂いて自分が気づかなかった視点もあって面白かったです。また、観客側も色々な発表の仕方や、自分では出会わないような本にも出会えて楽しかったです。またビブリオバトルに参加したいと思いました！

